

令和3年度 印西市在宅医療・介護連携推進事業計画

印西市が目指す姿
高齢者が、療養生活について自分自身で選択し、住み慣れた地域で人生の最期まで安心して暮らすことができる。
目指す姿を達成するための施策
「切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築」 本人、家族が我が事として療養生活に対する意思決定ができるよう、市民への周知啓発に努め、ワーキンググループとの作業を通して課題の抽出や必要な支援を検討し、体制づくりに取り組みます。
具体策
<p><u>1. 在宅医療・介護連携推進会議（認知症初期集中支援チーム検討会含む）において、具体的な取組を検討する。</u></p> <p>課題別ワーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民啓発ワーキング ・救急や看取りに関するワーキング等 <p><u>2. 在宅療養を支える関係機関への支援</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 訪問診療医、訪問看護師との情報交換の場を設ける。 ① 訪問診療医を支える訪問看護師への支援（連絡会への参加、人材育成等） ② 緊急時の受け皿になる病院の協力依頼 ③ 在宅医療を受ける当事者、家族への教育 <p><u>3. 認知症への取組み強化</u></p> <p>認知症初期集中支援チーム検討会を在宅医療・介護連携推進会議に取込み、対応策の強化を図る。</p> <p><u>4. 在宅療養、看取りへの取組み強化</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 関係者間の連携を支援するため、事業所ごとの連絡会、事業所間及び職種間の研修会等を開催する。 ② 特別養護老人ホーム連絡会において看取りへの対応について検討 ③ 救急キットや終活ノートを活用し、本人の意思確認ができる。 <p><u>5. 市民への周知啓発</u></p> <p>市民に対して、在宅医療や介護、看取りに関する周知啓発を行い、自身の療養生活について選択できるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 市民フォーラムを開催し、在宅医療の実際についてイメージができるように周知する。 ② 在宅医療ガイドブック、介護と医療サポートガイドなどの手引きの作成 ③ HPや広報、小集団に対する周知啓発

評価・指標

医療関係と介護職等の多職種が関わる研修会等を年3回程度開催する。
医療や介護について「知っている」「ある程度知っている」人が50%を超える。
市民に在宅医療や介護、在宅看取りについて理解する人が増加する。
認知症初期集中支援チーム支援数が増加する。